

底面給水育苗システム導入による ブロッコリー育苗技術の習得

大津・南部農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

大津市の株式会社 M は、収益性を高めるために、令和 2 年よりブロッコリーの栽培を開始されました。これまでは、頭上かん水による育苗のため、かん水ムラが発生し、苗数が不足することと労働時間がかかることが課題でした。

そこで、底面給水育苗システムを提案し、苗数の確保と育苗の省力化に取り組みました。

【普及活動の内容】

底面給水育苗システムの施工にあたって、資材や仕組み、施工方法を理解してもらうために、先進地の視察を行いました。

土詰めや播種方法から見直し、徒長を防ぐために出芽までの段積み時間を指導しました。

また、かん水時間の指標となるセルトレイの重さを生産者が量り、自ら判断ができるように促しました。さらに、1 週間ごとに生育を確認して、かん水時間を細かく設定しました。

【普及活動の成果】

底面給水育苗システムを導入したことにより、必要苗数への充足率は今年の 60% から 115% になり、目標を達成しました。また、育苗にかかる時間を 23% 削減することができました。次年度はシステムの施工時間が削減されるため、さらに省力化され、慣行の 58% の労働時間で育苗できる見込みです。

しかし、今年度は 7 月からの猛暑により、かん水量を多めに設定した結果、一部の苗が徒長してしまいました。この課題を解決するために、次年度は、より徒長を抑えた苗づくりを支援します。また、定植後の効果的な病害虫防除を実施するとともに、秋から春先まで長期的に収穫できるよう栽培計画を検討します。



写真1 播種指導の様子



写真2 底面給水育苗システム

◎対象者の意見

底面給水育苗システムの導入により、以前よりも省力的に均一な苗をつくることができました。来年は、かん水量を工夫して、より良質な苗をつくりたいです。(法人代表者)